



バイオサイエンス研究センター完成！

2012年2月に着工した新校舎「バイオサイエンス研究センター」が南校地キャンパスに2013年6月28日に無事竣工しました。バイオサイエンス研究センターは、本校地キャンパスの動物研究センターの機能を移すだけでなく、国内の薬学系大学における動物実験研究機関としては、規模・設備・内容共に最高水準の機能を備えた施設です。

「バイオサイエンス研究センター」の機能に焦点を当ててご紹介します。



CONTENTS

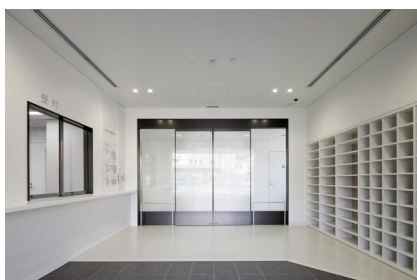
バイオサイエンス研究センター完成！	1～3	平成25年度科学研究費助成事業 採択状況	19～20
ご挨拶	4～7	大学生が描いた「京都のまちの将来像」発表会出場	20
特集 社会で活躍する6年制第1期生	8～10	2014年度 学部入学試験概要	21
京薬会だより	10	2014年度 大学院入学選考概要	22～23
医大研修プログラムに参加して	11～12	Library News	24
2013年度試験関係日程	13～14	学生相談室だより	25
卒業生からのメッセージ	14	サイエンス・インカレに出場して	26
2012年度授業評価集計結果の報告	15	受賞	27
2012年度決算について	16～17	人事	28
学内合同薬局・病院等説明会を開催しました！	18	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	28

南校地キャンパスの顔となる施設づくり

バイオサイエンス研究センターは南校地キャンパスの正門の正面に位置し、L型の建物形状により大きなエントランスコートをつくりだし、学生・職員や来学の方々を気持ちよく迎え入れます。南校地の持つ「静けさ」や「落ち着いた」雰囲気を継承しながら、新たな時代の顔となる魅力あるファサード（建物の正面）となっています。

また外観は本校地・南校地の両キャンパスの既存校舎に合わせた煉瓦タイルを採用しています。

今後南校地キャンパス内の施設周辺外構整備等も予定されており、プロジェクト完了後には南校地全体がアメニティ豊かなキャンパスとして生まれ変わります。



エントランス

SPF飼育室・研究室

施設最大の特徴はSPF動物を扱う機能を2階に集約していることで、実験室と飼育室が同一階にあるため研究者にとって安全・安心な研究施設となっています。

本施設の2階には、9室のSPF飼育室と大小6つの研究室を備えています。

※SPF：specific pathogen free

／特定病原微生物をもたない状態



SPF飼育室



SPF研究室

ノンストップ対応のISS・諸機械室

動物飼育室は通年24時間稼働施設であるため、本格稼働してからのシステム停止や変更は研究活動に大きな支障となります。ISSを設けたり発電機にてバックアップを行うなど、各種トラブルにも安心して運用できる施設となっています。

※ISS：intersitital space

／天井階設備点検スペース



ISS

各種飼育室・実験室

本施設には感染動物飼育室・実験室、大型動物飼育室・実験室、検疫飼育室・実験室などの施設を備えており、様々な研究に対応できる施設となっています。



感染動物飼育室



大型動物飼育室



検疫飼育室

衛生管理に配慮したエリア区分

SPFエリアと一般エリアを明確にし各種動線や空気の流れに配慮することで、清浄区域と汚染区域を厳格に区分し、飼育動物や研究者の健康維持を図り、動物実験の高い精度を保てる安全安心な施設となっています。また確実な清浄区域の管理を可能にするため、SPFエリアの入口には脱衣室・着衣室およびエアシャワーを備えています。



脱衣室



エアシャワー

【建物概要】

建築面積：781.19㎡
 延べ面積：2,503.89㎡
 規模：地下1階・地上3階
 構造：鉄筋コンクリート造
 着工：2012年2月9日
 竣工：2013年6月28日
 設計監理：株式会社 東畑建築事務所
 施工：株式会社 大林組

【主な施設】

3階：機械室、電気室、発電機室
 2階：SPF研究室・飼育室
 1階：研究室、検疫実験室・飼育室、
 脱衣室・着衣室、事務室
 B階：大型動物実験室・飼育室、
 感染動物実験室・飼育室、洗浄室

施設運営方針および飼育室・研究室の施設概要

施設運営方針

- 1) 先端的研究の実施が可能な機能・品質・効率に優れた動物実験研究施設
- 2) 研究内容の変化に対応し、稼働しながら機能更新可能で寿命の長い施設
- 3) 知の創造拠点にふさわしい衛生的かつ安全な空間を備えた費用対効果の高い施設

飼育室・研究室の施設概要

飼育設備：SPF飼育室（マウス5室、ラット2室、モルモット・ウサギ2室）

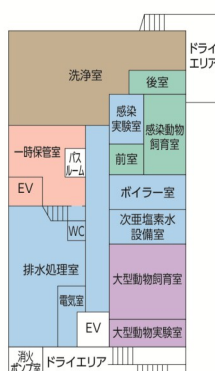
感染動物飼育室1室、大型動物飼育室1室、検疫動物飼育室1室

研究設備：SPF研究室6室、一般研究室2室、感染実験室1室、大型動物実験室1室、検疫動物実験室1室

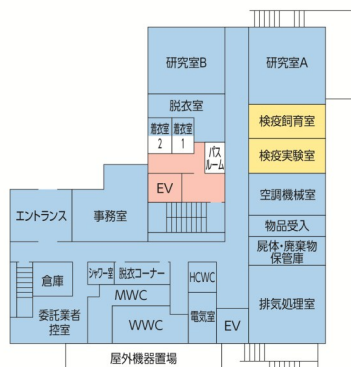
飼育数：最大収容ケージ数（概数）：マウス；2,000、ラット；500、モルモット；200、ウサギ；15

他に、スナネズミ、ハムスター、イヌの飼育が可能。

B 階 平面図



1 階 平面図



2 階 平面図



- 清潔エリア
- 準清潔エリア
- 検疫エリア
- 一般エリア
- 大型動物エリア
- 感染エリア
- 不潔エリア

就任のご挨拶



副学長・教務部長

教授 後藤 直正

1・2期の4年間を終了し、さらにもう2年教務部長を務めることになりました。なにとぞよろしくお願いいたします。

6年制1期生から「私たちはマウスか!」という衝撃的なコメント（詳細はKPU News, 2011の拙著をお読みください）があつて4年が経ちました。6年制の教育の最終目標は薬剤師国家試験への合格ではないことは確かなことです。しかし、6年制薬学を学んだ証であることは間違いなことですし、本学の目標である“Pharmacist-Scientist”たらんとする第1歩でしょう。ですから、薬剤師国家試験の合格は大きなことなのです。6年制1期、2期の皆さんは、未知の共用試験、そして6年制薬剤師国家試験に挑み、大きな成果を挙げられました。この努力は並みのことではありませんでした。3期生、そして後継の皆さんは、良き先輩を見習って進んで欲しいと思います。しかし、それだけでは3期生の存在は希薄になります。どうでしょうか？

さて、グローバル化という曖昧な表現ではなく、言語の異なる人たちと話しをすることは楽しいことでもあります。もう20年以上も前のことになりますが、1年間、カナダで研究生活を送るという機会に恵まれました。しかし、「さっぱり英語も話せないのに」をつけ加えなくてはなりません。カナダに行く前、数か月付け焼刃的に英会話を習いましたが、それがどの程度役立ったのかはコントロールがないことですので不明です。カナダでは、研究室のマネージャーに勧められて、夕方から移民のための英会話学校に行くことになりました。初日、クラス分けがあつたのですが、文法を主とする筆記試験でトップのクラスに振り分けられ、そうして悲劇が始まりました。新聞を渡され、その中の記事を数分で読んで討論するのですが時間切れで、なんやよう分からんままの討論参戦、シャイな日本人は圧倒するような諸外国の方々の発言に絶句。しかし、“圧倒”人の話しをよく聴いていると、記事なんてえ読んでない!ただ、目についた単語をもとに自己表現（「自己主張」とも言いますが）しているだけ、形容詞と副詞がおかしい!動詞もおかしいぞ!---というような具合でした。当然、正しい文法を知らながら、言葉も出ず、意見も出せない私が批判すべきことではありません。ようやく、見えてきたのは、母国を離れて職を得ようとする人々の真剣な姿でした。私

は、“天国”でボケた日本人そのものです。で、どうでしょう。これからの我が国、君たちの将来。多数の外国人が日本にやってきます。薬剤師として対応すべき病気の方もおられます。研究でも外国人と討論せねばなりません。私の経験から言えること。私たちは学校教育のなかで十分な文法、読解を身につけています。そうでしょうか？少なくとも6年間も英語を勉強してきたのです。それを実際に使う機会が希薄だから自信がないだけではないのでしょうか？磨かれていないのではないのでしょうか？

今年度から、英語に関する企画を幾つか始めました。TOEIC受験、英語での卒論発表会、英語での医薬品開発に関するサマープログラムです。TOEICの点数を恐れず、まずは受けて欲しい。成績が低ければ、勉強を始めたらいいいのです。卒論発表会、少なくとも数分間のショートトークは英語でやってみよう。複雑な話に対応できなくなったら日本語に切り替えればいいのです。この機会に自分の口から英語を発してみよう。だれもはじめから完璧を求めてはいません。生まれたときにマラソンを経験している人はいません。山を登るのは誰だって忍の一字です。臆することなく、新しいものごとに挑戦する姿勢を忘れないで欲しい。そのためには準備してほしい。英語の授業を真剣に受講してほしい。それが行われたとき、1期生、2期生の先輩の足跡にも匹敵することが成し遂げられるのではないのでしょうか？

-I have a dream. Martin Luther King, 1963-



研究科長

教授 小暮 健太郎

2013年3月末に、ご定年退職されました竹内孝治先生に代わり、4月から研究科長の大役を拝命いたしました、薬品物理化学分野の小暮です。なにとぞよろしくお願いいたします。

乾学長から、「大学院を盛り上げるよう、がんばってください」とご指示をいただいております。順調に進行している学部教育に続くべく、昨年度からスタートした新制大学院を盛り上げるために、多くの先生方とともに様々な問題の検討を開始したところです。

ところで、皆さんは「大学院とは何をするところ?博士になるとはどういうこと?」と思っておられる方が多いのではないのでしょうか?「ファーマシスト・サイエンティストを極め、自分の付加価値を高める」ところが、大学院博士課程なのです。

6年制学部の上の博士課程は4年間です。長いと思うかもしれませんが、決して長くはありません。な

ぜならこの間に、数多い大学院特論講義を聴講し、コースによっては臨床現場で1年間の研修を受け、さらに自らの研究テーマに関する学術論文（英文）を発表しなければいけません。6年次まで「ファーマシスト・サイエンティスト」を目指して卒業研究を行ってはいませんが、国際的な雑誌に英文で学術論文を発表するというのは、とても大変なことなのです。さらに研究は、すべてがうまくいくわけではありません。答えがあるわけでもありません。そのため、予期しない問題が生じ、それを見出し、解決していかないと前に進むことができません。4年という限られた期間の中で、これらをすべてクリアしなければいけないため、そのプレッシャーはとても大きなものでしょう。しかし、これこそが、博士課程でしか体験できないことなのです。すなわち、このような状況において、問題を克服し目標を達成するからこそ、短期間に自身でも驚くほどのレベルにまで成長できるのです。

みなさん、ファーマシスト・サイエンティストを極めてみませんか？



学生部長

教授 秋葉 聡

本年4月より北出先生の後任として学生部長を務めることになりました。学生部（学生部委員の教員・学生課事務職員）の方々とともに任を果たしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

学生部では大学生活全般を支援する事項を取り扱っており、例えば、奨学金や健康診断など、多岐にわたります。このような平穏な業務のみであればいいのですが、実際には、皆さん（学生）が「困った状況に陥ること」、「困った行動をすること」、「困った態度をとること」もあり、これらへの対応にも日々奔走（？）しております。

大学生活では、学習に関する悩みにとどまらず、クラス、クラブ、アルバイト先、分野などでの人間関係に悩むこともありえます。困った状況になったとき、なりそうなきは、学生相談員や分野の教員に加えて、学生課も窓口の1つですので、ぜひとも相談して下さい。

本学で学習する知識や技能（実験や調剤などの手技）は膨大な量ですが、卒業後に医療や研究・教育に携わるには、知識と技能だけでは不十分であり、人とのコミュニケーション能力の習得が必要不可欠となります。例えば薬剤師には、患者との会話時のマナーや傾聴の心得などを実行する態度が求められます。社会性を逸脱した「困った行動」が本学内外から時々聞こえてきますが、薬剤師・薬学者になる

ために必要な態度の根幹となる「社会のルールを守る」という態度を実行して下さい。

「朝の挨拶運動」をどのように捉えていますか。「挨拶は最低限の態度の1つ」と分かってくれていると思いますが、社会に出れば、本質を理解しないままの行動や、真心がこもらない態度は見抜かれてしまいます。実務実習や就職活動の直前での俄仕込みではなく、挨拶をはじめとした普段からの心がけが問われるのではないのでしょうか。

学生が皆「困ったこと」なく卒業できることが理想ですが、この理想は注意喚起や規制でつくるものではなく、学生と職員、全員の心がけでできるものと思います。私は学生部長として駆け出したばかりですが、“困った”奔走だけは減りますようにと願っております。



進路支援部長

教授 西口 工司

本年4月より安井裕之先生の後任として進路支援部長を拝命することになりました。進路支援課の業務にかかわらせて頂くのは今回が初めてです。不慣れた面があるかと思いますが、奮励努力いたす所存です。ので何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、本学を卒業された学生諸君は、製薬企業、病院、薬局、公務員などの多様な職種へ就職、あるいは大学院へ進学されます。学生諸君が進路や就職について考える際に有益な情報やアドバイスを提供するなど、その活動を全面的にサポートすることが進路支援課の役割です。そのために、本学の進路支援課は、各分野等の主任の先生方とも緊密な連絡を取ることを心掛けています。多様な就職希望職種、あるいは採用試験の内容や時期の変更など、学生諸君の指向や社会情勢は常に変化しています。これらに対しても、進路支援課はきちんと対応していきます。採用情報については、これまでよりも正確かつ迅速な収集と提供に努めます。具体的な支援活動は、求人情報の提供、2年次生から4年次生を対象として開催する進路ガイダンス（マナー講座、自己分析、ルール徹底、外部講師による職種説明など）、5年次生対象の進路支援セミナー（業種毎の説明会、グループディスカッション対策）および学内合同説明会（製薬企業、薬局・病院）の開催、窓口での個別相談、模擬面接、能力・適性検査の実施、インターンシップの紹介などです。このように、進路決定や就職活動に役立つ多くのサポート体制を準備していますので、是非とも積極的に進路支援課を訪れて、しっかり活用して下さい。希望する就職先の情報を収集するとともに、進路について悩みや迷いが

ある時には、ぜひとも進路支援課の職員に相談していただきたいと思います。

6年間を通じて勉学や実習に励み、薬学の専門知識を身に付けてください。そして、最も重要なことは、薬学の学びの中で、できれば早い時期に確かな自分の将来の夢に気づくことです。そのためには、常に自分の将来について、例えば「自分は将来何をしたいのか?」、「自分にはどのような職業が向いているのか?」など、自己に問いかけることを忘れないでください。そうすれば、今やるべきことや進むべき道は、自ずから見えてくることでしょう。すべての学生諸君が、自己の将来を考えながら大学生活を大いに楽しまれるとともに、希望する進路に進まれることを全力で応援します。

昇任のご挨拶



創薬科学系
生薬学分野

教授 松田 久司

本年4月1日付で吉川雅之名誉教授の後任として生薬学分野の教授に昇任させていただきました。私は、昭和54年3月に本学製薬化学科を卒業、続けて本学修士課程を修了しました。一旦製薬会社に就職しましたが退職し、再び本学博士課程に入学して昭和63年に学位を取得しました。その後、民間企業の研究開発部門に勤めておりました。その後、生薬学教室（現 生薬学分野）の吉川雅之教授（現 名誉教授）のお声がかりで、1996年に本学の助教授（2007年4月から准教授）として着任しました。以来、吉川先生のもとで生薬学関連科目の講義、実習および研究を行ってきました。本学に着任したときの研究環境は、各種分析機器など私が学生のときとは比べものにならないほどの充実ぶりで、これには驚きを禁じ得ませんでした。さらに、吉川先生のご配慮でかなり自由な環境で研究を始めることができ、今日に至っています。大学院生の頃から現在まで、職場は変わっても一貫して生薬関連の研究や開発に従事することができ、ご指導いただきました方々にとっても感謝しております。

現在私が担当している天然医薬品学（3年次）の内容は、主に生薬学・天然物化学です。このうち生薬学は薬学部ならではの講義科目と言えます。さらに、6年制が始まってからは漢方医薬学（4年次）および漢方医療概論（6年次）で漢方医学に関連した講義を分担しています。現在では医師の9割が何らかの漢方薬を処方するという調査結果があり、西洋薬との相互作用を含めた漢方薬の適正使用は薬剤師の必

須知識となっています。本学は高度の専門的能力と研究能力を有するファーマシスト・サイエンティストの育成を掲げて6年制一貫教育を行っており、生薬・漢方関連科目においても、薬剤師養成のための専門教育のみならず大学ならではのアカデミックな教育の両立をめざしていきたいと思っております。今後とも皆様のご指導、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



病態薬科学系

薬物治療学分野

教授 加藤 伸一

本年4月1日付で教授に昇進させて頂きました。私は平成2年に本学を卒業、平成4年に同大学院博士前期課程（修士課程）を修了し、藤沢薬品工業株式会社（現 アステラス製薬株式会社）で創薬研究に従事しておりました。平成7年に本学に助手として着任し、以降約18年間、本学で教育・研究に携わってきました。

研究テーマは、種々の消化器疾患の病態解析ならびに予防・治療法の探索であります。薬学および薬理学の領域における消化器研究は、必ずしもメジャーではありません。しかし、実際の臨床現場では消化器疾患の患者は極めて多く、また特定疾患の中でも最も患者数の多い潰瘍性大腸炎を含む炎症性腸疾患など、未だ病因・病態が不明でかつ治療法の確立も十分ではない疾患が多々残されています。また、非ステロイド性抗炎症薬や抗がん剤など、臨床で使用される多くの薬剤には、副作用として消化管傷害を誘起するものが多く、安全かつ有効な薬物療法を行っていく上で大きな問題となっています。現在私は、種々の消化器疾患、特に消化管粘膜病変の成立に寄与する炎症・免疫応答の新たな制御分子および機構の探索を中心に研究を展開しており、さらに上述のいわゆる薬剤起因性消化管傷害の病態解析や予防・治療法の探索に関する研究についても精力的に行っていきたいと考えています。

本学の卒業生は、病院や薬局、企業、行政など様々な医療に関連する分野で活躍しております。私はこれらいずれの分野においても、進め方や考え方などは異なっているものの、その基盤となるのは「研究マインド（研究する心）」であり、このことは6年制薬学教育となった今日においては益々その重要性を増してきていると考えております。したがって、私はこの「研究マインド」の育成に力を注いでいきたいと考えております。

新しい時代の薬学教育・研究の実現、さらには本学の更なる発展に微力ではありますが、貢献できるよう精一杯頑張っていく所存ですので、どうぞよろ

しくお願い致します。

新任のご挨拶



基礎科学系
一般教育分野
准教授 野崎 亜紀子

平成25年4月1日付で基礎科学系一般教育分野に着任いたしました。主に、「法学」「医療と社会」「英語」を担当します。私は、平成7年千葉大学法経学部法学科を卒業後、同大学院社会科学科修士課程、同社会文化科学研究科博士課程を修了し、日本学術振興会特別研究員を経て、平成16年から広島市立大学国際学部で教育・研究に携わってきました。

私は、法哲学という学問を専門としています。法哲学は、法学の中でも、法律の条文解釈や判例研究ではなく、「法とは何か？法的モノの考え方とはどのようなものか？」というように、「法」を哲学的探究の対象とする学問です。

私の問題関心は、次のようなものです。生殖補助医療や再生医療の臨床応用を目指す幹細胞研究（iPS細胞研究等）に見られるように、様々な医科学技術が進展し、私たちには「新しくできるようになったこと」が増えています。しかし私たちはこの「新しくできるようになったこと」を医療のプロフェッショナルや患者といった当事者の自由に任せるのではなく、社会のルールの下に置こうとします。時に、「できること」がルールによって制限されることも少なくありません。それではなぜ、そのような制限がなされてもよく、そのような規則は正しいとされるのでしょうか。私はその理由を理論的に検討しています。

薬学のプロフェッショナルを目指す学生諸君には、プロフェッショナルとしての高度の自律した専門性と共に、プロフェッショナルもまた、社会の中に在るのだということを知り、学んで頂きたいと思っております。国内外を問わず、この社会の中にある、様々な分野の、様々なものを考える手法、その成り立ちや文化に触れて頂きたい。そうしたものに触れる機会は降っては来ません。自ら動き、手を伸ばすしかありません。私の講義は、そのひとつの場の提供でありたいと思うのです。私も学生諸君と共に、食欲に学びを追究していこうと思っております。

社会の秩序を担う法とは何かを考える専門家として、微力ながら精一杯、教育・研究に力を尽くして参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



基礎科学系
一般教育分野
講師 坂本 尚志

平成25年4月1日付で一般教育分野に着任いたしました。私は、平成11年京都大学文学部二十世紀学専修を卒業後、同大学院博士前期課程を修了し、平成13年に、フランス南西部のボルドー第三大学にルノー財団奨学生として留学いたしました。留学生生活は10年3か月に及びました。その間、研究を進めるだけでなく、大学の日本学科に講師として8年間勤務し、フランス人学生に日本語を教えてまいりました。専門は20世紀フランス思想史で、特に哲学者ミシェル・フーコーについての研究を行っております。平成23年3月には『ミシェル・フーコーにおける歴史の問題』と題する博士論文をボルドー第三大学に提出し、哲学博士号を取得いたしました。同年7月に日本に帰国後、10月より京都大学高等教育研究開発推進センターに特定研究員として着任し、平成24年4月には特定助教に昇任し、高等教育に関する研究・開発業務に従事してまいりました。京都薬科大学では、フランス語ならびに哲学・倫理学、人間学、科学史などの講義を担当いたします。

一般教育の役割の一つとして、社会人・教養人としての自己を確立する手がかりを提供するということがあると考えます。たとえばフランス語は、現在もなお国際社会において確固とした影響力を持っています。フランス語を通して世界を見ると、そこにはわれわれの常識とはまったく違った風景が広がっています。哲学についても同様です。普段当たり前だと思っている現象や概念を徹底的に考え、思考を言葉にしてみると、思いもよらない難しさに直面するものです。こうした教育活動によって、世界の多様な見方、学ばせしさを伝えることができれば、これに勝る喜びはございません。微力ではございますが、本学の人材育成に尽力していきたいと存じますので、皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

クラブだより (1)

アメリカンフットボール 部

今年で創部39年を迎えます。現在部員18名、マネージャー10名で活動しています。

昨年は関西アメリカンフットボール秋季リーグ divisionⅢEブロックで準優勝しました。昨年よりもいい成績を残せるように日々厳しいトレーニングをしています。応援よろしくお願い致します。

本誌145号（2006年4月刊）の巻頭において、当時の西野武志学長（現 京薬会会長）が、6年制第1期生 新入生への祝辞のなかで、大学では、learnに止まることなく、さらにstudyを心がけてほしいと述べられていた。

「光陰矢のごとし」。それから6年経って、第1期生のみなさんは社会へと巣立っていった。そしてまた1年、社会のさまざまな場面で活躍しはじめたみなさんから頼もしい声が届けられた。西野前学長の希望は、十分に叶えられたように思われる。

在学生のみなさんには、先輩たちからの報告は、自らの今と将来を考えるために大いに役立つのではない。また、教育・事務両職員の方々にとっても参考になることが多いはずである。もっともっと多くの声を聞かせていただきたいところではあるが、まずは5名のみなさんに先陣を切っていただいた。

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹



千葉 美佐子

クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社 クリニカルオペレーション統括部 CRA

入社してあっという間に1年が過ぎました。私は現在治験に関わる会社で働いています。私の仕事に興味を持ってもらうためにも、まず簡単に仕事内容についてご紹介させていただきます。

新薬を開発するためには、必要かつ正しいデータを収集することが大切です。これはモニタリング業務と言われており、具体的には、症例報告書（治験に参加された患者さんの、治験に必要なデータを集めた報告書）を各医療機関から入手し、治験が計画通りに実施されているか確認をしています。

実は、恥ずかしながら大学に入学するまでは開発職という職種すら知りませんでした。薬剤師以外の職種を知るきっかけとなったのは、部活で企業に進まれた先輩から仕事について聞かせて頂いたことでした。そして2年次生の時に薬が開発されるまでの経緯について学び、開発への関心が高まりました。新しい薬が開発されれば、今まで満足な治療が受けられなかった多くの患者さんの役に立てるかもしれないと感じたからです。

さて、たくさんの方に支えられながら社会人1年間で過ごすことができました。振り返ってみると、自分が取った行動に伴う責任が学生の時より格段に大きくなったと実感しております。モニターになると担当施設が割り当てられるのですが、どんなに経験がなくても、その施設にとっては自分が会社の代表なのです。そのため、伝える内容に誤りがあったはいけません。学生の時あまり気にしていなかった報告、連絡、相談が必然的なものとなりました。また実際に働いてみて、治験が成り立つには想像以上

に様々な方が関わっていることが分かりました。5年次生の時に行かせて頂いた病院実習では、薬剤師の先生以外に、医師、看護師、検査技師、MRの方など、多くの方々と接し、また病院で働かれている方の日々の業務量がいかに多く大変であるかを感じることができました。このように病院内の様子を肌で感じられたことは今の仕事に大変役立っています。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、「好きなことを行動に移す」ということです。学生は社会人に比べて自由な時間が多くあります。旅行や好きな趣味など、やりたいことを意欲的にどんどん行動に移して下さい。そこから様々な方の価値観に触れることによって、自分の視野が広くなり、きっとやりたいことが見つかると思います。今しかできない楽しい経験をたくさんして、充実した学生生活を送って下さいね。



三好 彩香

公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 薬剤部 薬剤師

大学を卒業し、あっという間に1年がたちました。私は幼い頃から病院で働く薬剤師になりたいという夢を持っており、京都薬科大学に入学しました。そして現在、倉敷中央病院で薬剤師として勤務しています。

倉敷中央病院は、病床数1,161床、薬剤師92名の大きな病院です。設備もきれいで、私が患者さんだったらここに入院したいです（笑）。薬剤部は大きく4つの部署に分かれており、私は1年目の間、主に内服薬を調剤する調剤室と、抗がん剤などの注射薬や栄養輸液を混合調製する注射薬調剤室に半年間ずつ所

属していました。症例数が多く、先輩薬剤師や他職種のスタッフもたくさんいる環境の中で、新人薬剤師としてかけがえのないさまざまな経験を積むことができたと思います。

社会人になって1年が経過して思うことは、やはり病院薬剤師はやりがいがあって、楽しい！ということです。2年目となった今は正式に調剤室の配属になり、病棟での薬剤管理指導も始まりました。自分の知識をお伝えすることで患者さんが喜んでくださった時や、患者さんの検査値や治療方針などを確認しドクターや看護師と連携をとりながら治療計画がより良いものになった時は、病院薬剤師としてのやりがいをとて感じます。まだ病態や治療についての知識不足を痛感すること多いですが、毎日少しずついいから自分の引き出しを増やしていきたいと思っています。これからの私の目標は、人との縁やつながりを大切にしながら、幅広い知識や考え方を身につけてもっともっと患者さんの治療に貢献できる薬剤師になることです。社会人、そして薬剤師になって1年、原点に返ったような目標かもしれませんが、私はこの目標を今後もずっと大切にしていきたいと思っています。

私は、楽しかったこと、頑張ったこと、苦労したことなどを含めて学生時代のすべての経験が、将来社会人になった時の考え方や行動力に影響してくると思います。6年間の大学生活は、終わってみると本当にあっという間です。在学中のみなさんには、勉強も遊びも何にでも積極的に挑戦し、いろんな人の考えに触れることでたくさんの経験を積んで、自分が納得できる道を見つけてもらえれば、とても嬉しく思います。



岡本 一洸

UHA味覚糖株式会社 技術開発室
機能製品開発デパートメント
開発職 主任

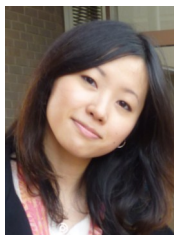
みなさん、こんにちは。私は今、UHA味覚糖で健康食品の開発に携わるお仕事をしています。世の中には、機能性素材と呼ばれるものがありますが、そういった素材を含んだ“食品”を開発することを目的として日々試行錯誤の毎日です。今回、KPU_{NEWS}でお話しする機会をいただきましたので少しですが、今のお仕事や、今の自分が思うことについて書かせていただきます。

まずは、お菓子会社を選んだ理由から…。きっかけは、中学生の頃からずっと継続して行ってきた課外活動での経験です。課外活動の内容としては“お菓子をテーマにした実験”を子ども達に演示し、理科の面白さに触れてもらうといったものでした。お菓子を前にした子ども達の笑顔や実験での反応をみ

ていると、『ああ！お菓子ってすごく身近な存在で、人を幸せにできるモノなんだな』って改めて気が付いたのです。①元々子どもとお菓子が好きだったことと、②モノづくりがしたい！という気持ちが強くなったことが、薬剤師ではなくお菓子会社の開発職を選んだ理由でした。

お菓子業界という全く違う業界に踏み込んだわけで、もちろん不安もたくさんありました。次は、そんな時にどんな形で、薬学で学んできた知識が支えになってくれているかについて触れていきます。お菓子会社だからといってお菓子を作るお仕事ばかりではありません。イメージしにくいかもしれませんが、含有成分の分析をするためにHPLC やGCを使うこともあります。お薬同様、体内に吸収されるものですので、体内に入った成分がどういう働きをするのか作用機序を調べてみることもありますし、食品と薬の相互作用を考えることもあります。食品と薬の世界はオーバーラップしている部分が多くあるので、こういう点で薬学の知識を活かすことができるわけなのです。

そして、最後に、社会人になって1年が経った感想ですが、今も昔も思うこととして、薬学部だから将来は①製薬会社で働くか、②薬剤師になるという固定観念は、もったいないなあと思います。未知の世界に飛び込んだとしても、厳しいけど優しい上司や、まるで家族みたいにフォローしてくれる先輩社員のおかげで、どうにかこうにかやっていきます（と思っています笑）。専門分野以外の世界でも、絶対に薬学の知識は活かすことができるんです！自分の幅を早々に狭めないようにして将来をイメージしてみてください。そうすると、社会人として働き出してから素敵なビジョンが見えるようになると思います。この記事から、食品業界についても興味を持っていただけたら幸いです。



北村 仁美

味の素製薬株式会社
研究開発本部 臨床開発部
開発第2チーム

皆さん、こんにちは。2012年卒業の北村と申します。皆さんより少しだけ早く社会に出た先輩として、お伝えしたいことがあります。まず、業務のご紹介。私が所属する臨床開発部は、創薬段階におけるヒトを対象とする試験（治験）を担う部署です。私はモニターとして、治験実施医療機関との契約に基づき、被験者（患者）さまの電子カルテの閲覧、医師等からの聴取より、治験が正しく実施されているかを確認（モニタリング）しています。治験薬以外の併用薬剤は、どの薬効を狙って施用されているのか、心電図チャートは不整脈を示していないか、臨床検

査値の推移は異常を示していないか…と被験者さまの状態を、電子カルテから読み解いていくのですが、この際、大学講義で得た知識や実務実習経験が大いに活かされています。薬学の知識を学んでいなかったら苦労していただろうな、としみじみ思います。実際、他学部出身の同期は、必要知識習得の為、業務の合間を縫って猛勉強中です。ですが、やはり学生時代に6年間薬学を学び、臨床現場を5箇月間体験していることは薬学出身者の大きな強みです。また、私にとって、もう一つ忘れてはならないのが学生時代の分野配属。治験は治療ではなく、薬候補化合物の国の承認取得を目的としたヒトで行う試験です。成功確率増加を狙って試験系を組み、評価するという点は研究と共通しており、いわば治験=サイエンスです。私が所属していた薬品化学分野では、学会発表や学術論文執筆の機会にも恵まれたことで、プレゼン・コミュニケーション能力やサイエンスに根差した物事の考え方・捉え方が知らず知らずのうちに磨かれ、本分野での研究経験は今の私の礎となっています。

今、学生の皆さんはプロ中のプロ!の先生方に気兼ねなく質問できる大変恵まれた環境にいます。ですから、学生時代に学べるものは習得してしまうことをお勧めします。一旦会社の看板を背負ってしまうと、自分の発言一つにも大変気を遣いますし、勉強する時間も多くとれません。私自身、学生時代に戻れるのなら先生方に質問したいことが山ほどあります。あと、ぜひ学生のうちに幅広い年代・背景の人との人脈を構築してください。特定の固定観念に捉われない広い視野を得る為に重要です。

私もまだまだ成長の途上ですのでお互い励んでいきましょう!最後に、KPU^{NEWS} 寄稿という光栄な機会を与えてくださった京都薬科大学の関係者全ての皆さまにこの場を借りて深く御礼申し上げます。



片山 寛子

アステラス製薬株式会社
物性研究所 研究員

私は薬学部6年制1期生として卒業後、2012年4月よりアステラス製薬株式会社製剤研究所に研究員として入社しました。2013年度の組織改編に伴い、現在は物性研究所に所属しています。

入社してからの主な業務は、治験薬の規格及び試験法を開発することです。さらに開発した試験法を治験薬の製造サイトに移転する業務も行っています。また、様々な分析機器を駆使し、製剤の物理化学的性質を追究する業務にも携わっています。

私が研究者として患者様の健康に貢献したいと考えたのは、京都薬科大学での学びのスタイルにあり

ます。それは6年制薬学でありながら、研究と実務の二本柱をもっていることです。研究室生活では、実験の難しさや楽しさを知りました。一方、実務実習では患者様とのコミュニケーションの中で、製剤が果たす役割の大きさを感じました。実務実習があった分、研究に取り組む時間が限られていたことも事実です。しかしながら現在、大好きな実験の向こう側におられる患者様の姿を描きながら業務を行うことができています。今後もこの経験が私を支え、成長の基となっていくと信じています。

社会人として最初の1年は「能力は習慣」という言葉を意識し、良い習慣を多く身につけるように過ごしました。また実験を進める中で、新しい事実や様々な分野のプロフェッショナルとの出逢いが絶えませんでした。これからは視野を広げて中長期的な目標を定め、理想の自分像に近づく努力をしていきたいと思います。

「その日その日を大事に一步一步積み上げていく。それを続け、小さなことを積み重ねることが、結果的に本当の力になる」と私は考えています。このことが遠回りのようで一番の近道だと感じています。

最後に、私を支えて下さった皆様、そして今回執筆の機会を与えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

京 薬 会 だ よ り

<2013年度 京薬会代議員総会の開催>

2013年度京薬会代議員総会は5月18日（土）に開催されました。当日は午前中に支部長会、そして午後には代議員総会が開かれました。支部長会に於いては恒例となった支部長の自己紹介に引き続き、現在の京薬会ならびに支部会活動の抱える諸問題について、活発な議論が交わされました。午後開催された総会では2012年度活動報告が西野会長より、決算報告が北出幹事よりなされました。このなかでは終身会員数が1,200名を超えたこと、さらに不明会員を減少させる取り組みをさらに強化していくことも報告されました。

続いて交付金、代議員制度等の議題について活発な議論が交わされ、2013年度の活動計画ならびにそれに伴う予算案が決定されました。また、新任幹事として平成3年卒業の藤田知子さんが承認されました。

<ホームカミングデー開催予定>

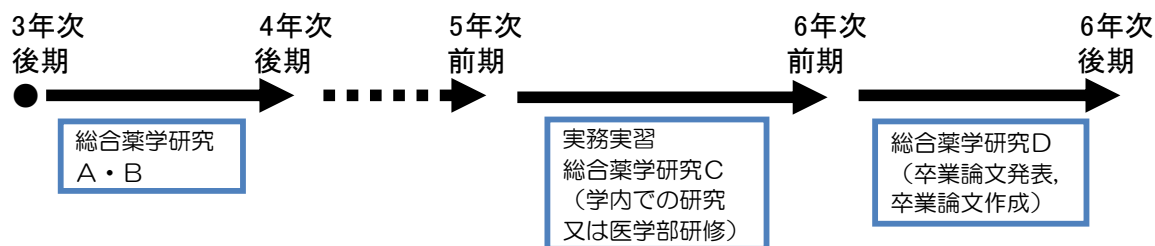
本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月4日（月・振替休日）に開催されます。昨年は100名を超えるみなさんの参加を得ることができましたが、本年は日本薬剤師会会長、児玉 孝氏（昭和45年卒）の講演を予定しておりますので、更に多くの卒業生の皆さんの里帰りをお待ちしております。

医大研修プログラムに参加して

教務課

医大研修プログラムは、卒論研究を3年次後期より約1年間所属分野で行ってきた熱意のある学生が、医療の最前線である臨床講座（医局）および基礎研究教室で貴重な研究や体験を積み重ねることにより、医療チームの一員として医療研究に貢献できる有能な人材を育成することを目的とし、2010年度5年次生からスタートした。希望者は滋賀医科大学及び京都府立医科大学の基礎または臨床医学研究室で4ヶ月間の研修を行う。研修の成果については、総合薬学研究Cの単位として認定し、卒業論文テーマとすることも可能である。

【総合薬学研究（卒論研究）の流れ】



6年次生 植田 奈都美

私は2012年12月から2013年3月末日までの4ヶ月間京都府立医科大学の法医学教室（池谷博教授）において研修をさせていただきました。

医大研修に参加しようと思ったのは、実際に参加された先輩のお話を聞いたのがきっかけでした。

実際に参加してみて、病態や薬についての知識はもちろんのこと、普通に生活しては気づかなかった医療の問題点が見えてきました。そして、薬剤師としてどのように問題を解決していけば良いかを考える良い機会になり、私なりに成長できたと感じています。

実際の医大研修の一日を紹介させていただきます。午前中は主に司法解剖を詳細に見学したり、関連する検査を薬剤師の先生とともに体験させていただきました。午後には司法解剖を行った方の死因や既往症、服用されていた薬などについて勉強させていただきました。実際に司法解剖では、医師の先生から臓器の働きや病態について教えていただくなど、貴重な経験をさせていただきました。4ヶ月間を通して、人体についての理解が深まったと思います。これは薬について勉強する上で、とても役立つことだと感じています。

他にもCT検案（京都府立医科大学ではCTによる死因救命を行なっています）や救命救急の見学、医事法研究会への参加、など非常に多くのことを経験させていただきました。

また、法医学教室には医師だけでなく、臨床検査技師、薬剤師の方も在籍しておられ、いろいろなご意見やお話を聞かせていただくことができ、勉強になり、京都薬大の研究室だけではなく、他の研究室の雰囲気味わうことはとても新鮮でした。

医大研修に参加するには不安もありましたが、実

際に参加させていただいて、予想以上の多くのことを学ばせていただくことができ、かけがえのない経験ができたと思います。

お世話になった京都府立医科大学法医学教室の池谷教授と教室員の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

6年次生 大西 民男

私は滋賀医科大学のMR医学総合研究センターで約4ヶ月の間、医大研修プログラムを受けさせていただきました。私はもともと癌治療の領域に興味を持っていましたので、その研究ができるこのプログラムはとても魅力的でした。

研究テーマは「C-13標識グルコースを利用した生体NMRによる癌の代謝とその薬物応答の解析」というもので、本大学にはないNMR（核磁気共鳴）法を高度利用する研究に参加させていただきました。研究内容を簡単に説明すると、癌細胞のpH調節機構を破壊させることで、間接的に癌細胞内の乳酸の生成と排出に作用して、乳酸アシドーシスを惹起させて癌細胞を殺すことができるのではないかと、いうものです。NMR法は、臨床ではMRI（核磁気共鳴画像）として、体内の病変部を水素の核スピンを利用して高解像度で描出する画像診断として利用されていますが、生体内の特定の化合物に由来する信号を検出、識別することもできます。また、NMR法は放射線を用いないため、生体の被爆を回避でき、繰り返し信号を計測することにより、生体内での物質の化学変化を経時的に追跡することもできます。このNMR法を用いて、担癌ラットに治療薬とC-13標識グルコースを同時に投与し、グルコースから産生する乳酸の変化を測定しました。

研修当初は、ラットに移植する細胞の培養方法や

移植の方法、NMRの使用法などを教わり、研究内容について理解を深めました。その後は、滋賀医大の犬伏教授と相談しながら様々なデータを収集していきましました。実験方法について丁寧に指導して頂いたので、短期間で習得することができました。初めて知ることがほとんどで、毎日が勉強の研修生活となりましたが、多くのことを学ぶことができ、有意義な時間を過ごせました。研究は順調に進まないこともありましたが、滋賀医大の先生方や本大学の先輩に相談することで、課題を乗り越えることができました。滋賀医大の研究室には、長年研究に従事されている研究者の方ばかりが在籍されていたので、そのような先生方と共に研究できたことは大変貴重な経験となりました。

学外に出て研究するのは大変ではありましたが、国立大学の医学部という新しい環境で研究する機会を得ることができ、私自身大きく成長することができたと思っています。最後になりましたが、医大研修プログラムで学ぶ機会を与えて下さいました本学関係者の皆様、及び直接ご指導頂いた犬伏教授をはじめ滋賀医大の先生方に深く感謝致します。

6年次生 荻野 仁未

2012年12月から3月末までの期間、私は京都府立医科大学の一般・移植外科にて、研修させていただきました。医大研修プログラムのガイダンスの際、治療方針を決定している医師の考えをとらえることができる貴重な機会であると強く興味を持ち、参加することにしました。

このプログラムに参加して、吉村勇了教授を始めとする移植・一般外科の医師、病棟の薬剤師や看護師の方々、そして患者さんから3つのことを学ばせて頂きました。

まず1つ目として、移植医療におけるチーム医療の重要性についてです。入院後の多岐にわたる処置を知り、多くの職種が協同しなければ治療が成り立たないこと、さらに、各専門分野において十分な役割を果たさなければならないことを実感することができました。

次に2つ目として、日々変化する患者さんの状態や検査値などを総合的に評価する大変さです。医師の先生方は触診や画像診断、検査値等を経時的にとらえ、それらの結果を総合的に評価して診断されました。また、薬剤師の先生方も処方提案を行う際は、患者さんの状態や変動、さらに医師の治療計画にも配慮されていました。臨床現場では、教科書やガイドラインの指標どおりにいかないことも多く、自分の知識と目の前の情報から判断しなければいけないと思いました。さらにそれぞれの考えをチーム内で意見交換し、治療方針が決定されていくのを見てディスカッション能力の必要性も感じました。

最後に3つ目として、医療のすばらしさです。実務実習は短期間であったため、患者さんの日々の変化

や治療の結果を十分に体験することができませんでした。今回の研修では、肝臓移植後の患者さんが、さまざまな処置を通して黄疸や腹水が目に見えて改善され、日々元気になっていかれる姿をみることができ、とても感動しました。

今回、臨床現場での医療従事者の方々の働きをみて、将来、うまくいかないことに遭遇したとしても前向きに目の前の問題に取り組もうと思いました。そのために日々よく考え迅速に行動にうつすことを心掛けたいです。

6年次生 前田 百合香

私は、医大研修プログラムにて京都府立医科大学産婦人科教室で約4ヶ月間学ばせていただきました。

医大研修プログラムは、薬剤学分野の先輩が参加していたので、大学から教えていただく前から知っていました。先輩の話は、今まで自分が所属していた京都薬科大学の研究室とは異なる経験をさせていただくことができた楽しそうに話していて、私も興味をもっていました。医大研修プログラムを大学から案内され、私は将来は妊婦・授乳婦専門薬剤師になりたいと考えていたので、私自身が自分の体の不思議、女の人のメカニズムや産婦人科の先生方の世界に触れたいと考え、医大研修プログラムに参加させていただきました。

京都府立医科大学産婦人科教室では、今までと異なる環境、実験内容、実験装置に最初の2、3ヶ月は必死でした。自分の知識の少なさを感じ、自信がもてませんでした。しかし、私の実験を教えてくださいました先生方の熱心なご指導ご鞭撻により、だんだんと自分が行っている内容の理解が深まっていきました。この教室で、私は実験を自発的に行うこと、学び調べること、着眼点、アイデアの大切さを学びました。そして、実験を頑張ることも必要ですが、限られた期間の中で、自分が行う実験の結果を出すことの重要性を考えさせられました。

医大研修プログラムに興味を持っていた後輩から「医大研修どうですか？」と話をきかれました。そのとき、私ははっきりと「行くべきだ！」とは言えませんでした。なぜなら、私は良い実験結果を出すことができなかったからです。限られた期間の中で、新しい環境で、データも何もない状況から新しいことを行う難しさ、研修する教室の環境にも大きく左右されるからです。私が学ばせていただいた産婦人科教室では、実験手技や器具も豊富で、新しいことを体験することができました。教室の先生方は、皆さんとても気さくで話しやすく、お忙しい中、様々なことを教えていただく機会も沢山与えてくださり、貴重な体験をさせていただくことができました。産婦人科教室に研修に参加させていただく機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

2013年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

2013年度の試験日程は【表1】のとおりです。

各学年とも進級・卒業要件をよく確認するようにしてください。また最近、試験日時を間違えるケースが時折見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

選択科目（人と文化、選択外国語）の不合格科目は、再試験手続をしなかった場合には放棄とみなし、翌年度の前年次科目再試験を受験することができなくなります。放棄した科目は平均点の算出対象外となりますが、履修登録した年度内は平均点に算入されます。

シラバス「学修の手引き」の項にも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでおいてください。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2013	4年次生 前期試験	7月16日(火)～ 7月23日(火)	8月23日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3、6年次生 前期試験	7月23日(火)～ 7月31日(水)		
	2～4年次生 前年次・前々年次科目 再試験	9月2日(月)～ 9月5日(木)	成績通知書を配付	4月18日(木)・19日(金)
	1～4、6年次生 前期科目再試験	9月6日(金)～ 9月12日(木)	成績通知書を配付	前期試験の再試験受験 手続期間:8/26(月)・27(火)
	4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月14日(土)・15日(日)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
2014	6年次生 薬学特別演習本試験	1月7日(火)・8日(水)	1月20日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月9日(木)～ 1月16日(木)	1月27日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月20日(月)～ 1月28日(火)	2月10日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月22日(水)・23日(木) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	6年次生 薬学特別演習再試験	2月4日(火)・5日(水)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	薬学特別演習の再試験受験 手続期間:1/21(火)・22(水)
	4年次生 後期科目再試験	2月4日(火)～2月7日(金)	2月14日(金)に発表予定 (Web公開)	後期試験の再試験受験 手続期間:1/28(火)・29(水)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月21日(金)～ 2月28日(金)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	後期試験の再試験受験 手続期間:2/12(水)・13(木)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間:1/28(火)・29(水) 【後期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間:2/17(月)・18(火)
	4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月4日(火)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月6日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～6年次生は分野主任から受け取ってください。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年	10月3日(木)～ 10月10日(木)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	6年次	2月18日(火)～ (卒業査定会終了後配付します)	—
	1～5年次	3月20日(木)～ (進級査定会終了後配付します)	4月中旬～下旬

卒業生からのメッセージ

次世代の薬剤師の皆さんへ

村木 優一



1999年 学部卒業(病院薬学教室)
2001年 修士課程修了(同上)
2010年 医学博士(三重大学)
三重大学医学部附属病院
薬剤部 副薬剤部長
感染制御専門薬剤師、
抗菌化学療法認定薬剤師、
災害医療支援チーム(DMAT)隊員

皆さんは病院薬剤師という仕事についてどのようなイメージを持たれているのでしょうか。今、病院薬剤師の仕事は大きく変貌を遂げようとしています。私が入職した当時は医師が処方した内容を解析するといった後ろ向きの業務が主体でした。ところが、現在は処方が発生する時点で薬剤師が関与し、相互作用や腎・肝機能を考慮して処方をカンファレンスなどで提案するなど前向きに関与することが中心になっています。また、患者さんに関わる臨床検査値や診療記録、画像なども電子化が進み、得られる情報も充実したため、投与された薬剤の臨床効果や副作用を様々な視点から評価できるようになりました。一方、様々な分野において専門/認定薬剤師制度が発足し、年々取得者数は増加しています。これら

の取得要件には、より高度な知識、臨床経験が求められ、その分野における実績(論文)を残せることが必須とされています。

私自身、臨床に直結する研究を行いながら、患者さんと向き合いたいと思い、大学病院に勤めました。その後、日常業務を行いながら肝移植患者さんの免疫抑制薬や抗真菌薬の血中濃度を測定し、新たなエビデンス構築を行ってきました。そして現在、感染症を専門として個々の患者さんにおける抗菌化学療法の適正化や院内の感染制御活動に携わっています。また、最近では全国の感染症を専門とする薬剤師と日本の抗菌薬使用動向を把握する調査研究を実施するなど、これから次世代の皆さんがさらに上を目指せる環境作りを目指しています。

病院薬剤師として勤務して13年目になりますが、自分を支えてきたものは、やはり京都薬科大学の研究室で学んだ研究に対する考え方や技術、部活動で学んだ礼儀作法や忍耐だと思います。その一方で、入職後に苦労したことは大学で学んだことが臨床にどう活かせるかイメージできていなかったことです。そのため、長期実務実習では、学生の皆さんに自分たちが学んでいる学問がどのように活かされるのか気付いてもらえるような教育を心がけています。私たちの先輩薬剤師が臨床薬剤師の道を創り、私たちの世代はその新しい道で数多くの実績と経験を積み重ねています。その積み重ねた土台を基にさらにその上を目指す次世代の皆さんと今後、一緒に仕事できることを非常に楽しみにしています。

2012年度授業評価集計結果の報告

授業評価検討委員会

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価をセメスター毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは、冊子にまとめて公開し、図書館に収蔵します。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

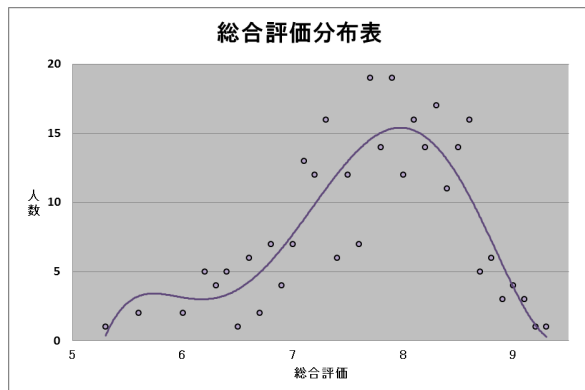
2012年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

◆設問項目別授業評価の全体平均は下表のとおりでした。

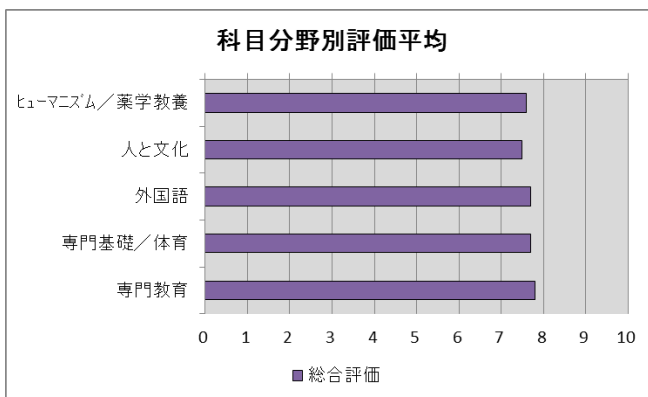
設 問	2012年度
	評 価 (5段階)
Q01.話し方が明瞭で聞き取りやすかった。	4.2
Q02.説明がていねいでわかりやすかった。	4.1
Q03.板書、液晶プロジェクターなどが適切でわかりやすかった。	4.0
Q04.教科書・参考書やプリントなどの教材が適切に使用されていた。	4.1
Q05.授業はシラバスに沿って進められた。	4.2
Q06.重要事項を強調して説明していた。	4.1
Q07.よく準備され、熱意が感じられた。	4.2
Q08.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた。	4.0
Q09.授業に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.0
Q10.この授業に興味を持つようになった。	4.0
Q11.教員は学生の質問や意見に対して適切に対応した。	4.0
項 目 平 均	4.1

※2011年度項目平均「4.0」

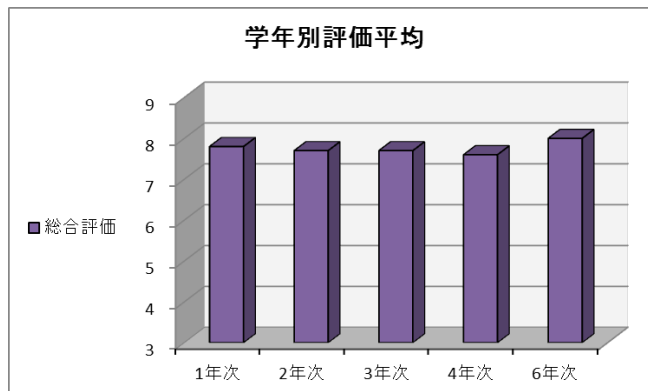
◆教員個人別評価の分布は、平均値7.72でした。



◆総合評価と授業科目分野区分との関係は、「人と文化」が他に比べやや低い結果でした。



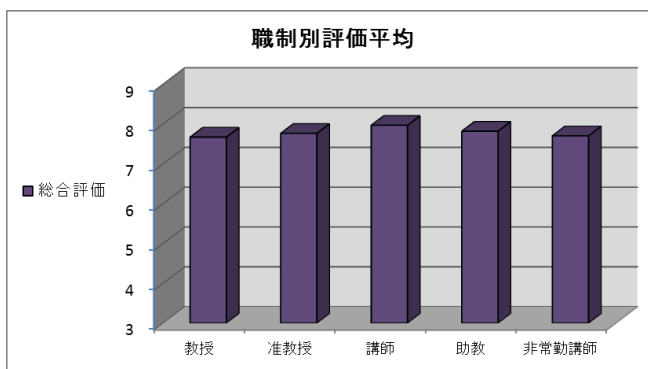
◆学年別平均は、各学年で特に大きな差異は見られない結果でした。



※1年次は「新カリキュラム」に移行。

※5年次に授業評価アンケート対象科目はありません。

◆職制との関係では、講師の評価が他よりやや高く評価される結果でした。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生へ感謝いたします。また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

学校法人京都薬科大学2012年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、5月17日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

当年度に実施した主な施設整備事業では、2012年度においても学生満足度調査による学生の要望により、愛学館と躬行館の間に渡り廊下を設置しました。雨天時の建物間の移動に際してこの設備を望む声が多く寄せられていたことに応えたものです。

また、本校地の動物研究センター北側の宅地812.54㎡（245.79坪）を校舎敷地として取得しました。2013年6月に南校地にバイオサイエンス研究センターが完成した後、9月から動物研究センターの解体工事を行います。これに始まる本校地整備計画において、この土地も有効に活用していく予定です。なお、2012年度決算には、建築中のバイオサイエンス研究センターに係る工事費の中間払い及び同センター内に設置する機器備品などの経費が計上されています。

その他の主な事業としましては、2012年度は文部科学省が管轄する補助事業に多く申請を行いました。その結果、私立大学戦略的研究基盤形成事業に新規1件、継続2件、私立大学教育研究活性化設備整備費補助金に1件、私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費補助金）に2件、私立大学研究設備整備費補助金に3件、大学改革推進等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）に1件、総額197百万円の補助金を獲得しました。

また、老朽化した中央講堂兼体育館の建替えのため、第2号基本金に500百万円を組入れるとともに、本学の奨学金制度の充実を図る奨学基金に400百万円、若手研究者の研究活動を積極的に支援する科学振興基金として100百万円、合わせて500百万円を第3号基本金に組入れました。

2012年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、入学者数が定員360名に対し366名となったことなどで予算額を若干上回り4,270百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より408名増（16.5%増）の2,870名となったことを主因に102百万円と予算額を上回りました。寄附金収入は、61百万円と予算額を上回りました。奨学金制度充実のための寄附募集及び年度末から開始しました創立130周年記念募金に多数の方からご賛同いただき、特別寄附は予算額を16百万円上回りました。しかし、研究助成を目的とした企業等からの一般寄附金では、2012年度の経済情勢などの影響から予算額を5百万円下回りました。補助金収入は、経常費補助金を中心に520百万円で予算額を大幅に上回りました。

特に、前述のとおり補助金事業に積極的に申請したことが大きな要因です。資産運用収入は、140百万円で予算額を上回りました。資産売却収入は、各種事業資金の充実を意図した国債の売却差益の獲得及び利率の高い銘柄への移行を目的に買替えを行った結果、予算額を大きく上回りました。事業収入は、企業等からの委託研究費が減少して予算額を19百万円下回り40百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、教育職員の補充人事が計画通りに進まなかったこともあり、1,783百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、省エネ対策による光熱水費の減少、緊急修繕及び業務委託等の減少などの理由から、予算額を下回り1,017百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り229百万円となりました。施設関係支出では、前述の本校地隣接地と南校地内の国有地の取得、愛学館と躬行館間の渡り廊下の設置、バイオサイエンス研究センター工事費の中間払いなどで、628百万円となりました。設備関係支出では、補助金事業に採択され購入した教育研究用機器備品及び実習用機器などの整備で512百万円となり予算額を大きく上回りました。資産運用支出は12,085百万円で、国債の買替え、新規購入及び資産運用収入の繰り入れの他、前述でも触れていますが、奨学基金に400百万円、科学振興基金に100百万円を組入れています。

以上により、次年度繰越支払資金は、3,036百万円となりました。

消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、殆どの収入科目が予算額を上回り5,419百万円となりました。特に、国債の買替えによる資産売却差益は105百万円となりました。また、基本金の組入れは、バイオサイエンス研究センター建設のための第2号基本金を第1号基本金に振替えを行いました。また、第3号基本金には奨学基金に400百万円、科学振興基金に100百万円を組入れるなど、計1,306百万円の基本金組入れとなりました。この結果、消費収入の部合計は、4,113百万円となりました。

一方、支出においては、人件費及び教育研究経費の減少により、消費支出の部合計は予算額を361百万円下回り3,793百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は319百万円の収入超過となり、前年度からの消費収入超過額1,166百万円を加え、翌年度に繰越す消費収支差額は1,486百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が1,626百万円となり、帰属収支差額比率は30.0%となりました。

貸借対照表（表3）

有形固定資産は、土地の取得、愛学館と躬行館間の渡り廊下の設置、教育研究用機器備品の購入などに伴う増から、機器備品の廃棄及び減価償却などに伴う減を差引きした結果、前年比366百万円増の14,084百万円になりました。その他の固定資産は、第3号基本金引当資産に510百万円の組入れなどを行い、前年比988百万円増の13,363百万円となりました。また、流動資産は、現金預金が104百万円増加し、前年比232百万円増の3,349百万円となりました。その結果、資産の部合計は30,796百万円となり、1,587百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債913百万円は全額退職給与引当金です。流動負債839百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,752百万円となっています。

基本金の部は、第3号基本金には奨学金制度及び科学振興基金制度の充実を図るため510百万円を組入れています。その結果、基本金の部合計は27,557百万円となり、前年比1,306百万円の増加となっています。

消費収支差額の部は、前述のとおり翌年度繰越収入超過額が1,486百万円となりました。

以上

表1 資金収支計算書（総括表）

2012年4月1日 ～ 2013年3月31日 (単位:千円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,250,500	4,270,341	△ 19,841	人件費支出	1,917,000	1,783,378	133,621
手数料収入	78,000	102,015	△ 24,015	教育研究経費支出	1,161,000	1,017,337	143,662
寄付金収入	50,000	61,172	△ 11,172	管理経費支出	237,100	229,330	7,769
補助金収入	427,900	520,360	△ 92,460	施設関係支出	868,200	628,658	239,541
資産運用収入	125,200	140,342	△ 15,142	設備関係支出	235,700	512,084	△ 276,384
資産売却収入	1,499,400	4,822,143	△ 3,322,743	資産運用支出	5,657,700	12,085,493	△ 6,427,793
事業収入	59,300	40,005	19,294	その他の支出	752,300	761,861	△ 9,561
雑収入	166,000	173,083	△ 7,083	予備費	20,000		20,000
前受金収入	608,900	560,301	48,598	資金支出調整勘定	△ 299,500	△ 300,420	920
その他の収入	3,900,800	6,995,406	△ 3,094,606	次年度繰越支払資金	2,718,100	3,036,354	△ 318,254
資金収入調整勘定	△ 819,500	△ 863,299	43,799				
前年度繰越支払資金	2,921,100	2,932,205	△ 11,105				
収入の部合計	13,267,600	19,754,078	△ 6,486,478	支出の部合計	13,267,600	19,754,078	△ 6,486,478

表2 消費収支計算書（総括表）

2012年4月1日 ～ 2013年3月31日 (単位:千円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	4,250,500	4,270,341	△ 19,841	人件費	1,886,100	1,759,670	126,429
手数料	78,000	102,015	△ 24,015	教育研究経費	1,905,000	1,700,832	204,167
寄付金	60,000	68,546	△ 8,546	管理経費	333,900	327,723	6,176
補助金	427,900	520,360	△ 92,460	資産処分差額	10,000	5,302	4,697
資産運用収入	125,200	140,342	△ 15,142	(予備費)	20,000		20,000
資産売却差額	0	105,025	△ 105,025				
事業収入	59,300	40,005	19,294	消費支出の部合計	4,155,000	3,793,529	361,470
雑収入	166,000	173,083	△ 7,083	当年度消費収支差額	△ 331,800	319,875	
				前年度繰越消費収支差額	1,051,000	1,166,538	
帰属収入合計	5,166,900	5,419,719	△ 252,819	基本金取崩額	0	0	
基本金組入額合計	△ 1,343,700	△ 1,306,314	△ 37,385	翌年度繰越消費収支差額	719,200	1,486,414	
消費収入の部合計	3,823,200	4,113,405	△ 290,205				

表3 貸借対照表（総括表）

2013年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	27,447,103	26,092,255	1,354,847	固定負債	913,409	937,116	△ 23,707
有形固定資産	14,084,012	13,717,246	366,765	流動負債	839,309	854,492	△ 15,183
その他の固定資産	13,363,090	12,375,008	988,081	負債の部合計	1,752,719	1,791,609	△ 38,890
流動資産	3,349,280	3,116,828	232,452	基本金の部			
現金預金	3,036,354	2,932,205	104,149	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	312,925	184,622	128,303	第1号基本金	21,787,075	20,810,981	976,093
				第2号基本金	1,145,132	1,331,007	△ 185,874
				第3号基本金	4,385,042	3,874,946	510,095
				第4号基本金	240,000	234,000	6,000
				基本金の部合計	27,557,250	26,250,935	1,306,314
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	1,486,414	1,166,538	319,875
				翌年度繰越消費支出超過額			
				消費収支差額の部合計	1,486,414	1,166,538	319,875
資産の部合計	30,796,383	29,209,083	1,587,300	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,796,383	29,209,083	1,587,300

(注) 減価償却の累計額の合計額 7,680,486千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

学内合同薬局・病院等説明会を開催しました！

進路支援課

学内合同薬局・病院等説明会は、長期実務実習が終了したあとの今年4月7日（日）に、薬局や病院・自治体の採用担当者に本学にお越しいただき、学生との接点を持つ場として開催されました。当日は躬行館の食堂とセミナー室を使い、午前35社、午後38社の計73社の薬局・病院等に参加していただきました（詳細は下記参照）。

説明会には、本格的な就職活動を開始した6年次生を中心に、将来の就職を見据えた4・5年次生が、この貴重な機会を活用しようと集まりました。6年次生は午前159名・午後179名、4・5年次生は午前44名・午後32名、全体で午前203名・午後211名が参加しました。

参加した学生からは、「普段では情報を得ること

が難しい病院や、数多くの薬局の参加があり、比較して考えるうで大変参考になりました」などの意見が挙がっています。一方、薬局・病院等からは、「多くの意欲的な学生と接することができ、とても有意義な機会となりました」などの感想が寄せられました。

今回の説明会では、最大10ブースを訪問できるタイムスケジュールを設定するとともに、移動時間に加えて休憩時間を設けたこと、最終説明時間を質疑応答のみとしたことなど、学内外の皆さんからのご意見を参考に工夫しました。

進路支援部では、今後も学内外からのご意見をいただきながら、説明会をより有意義な機会にしていきたいと考えています。この機会を活かし、学生が充実した就職活動に臨めることを願っています。



業種	参加薬局・病院等 《午前（9：30～13：00）》
薬局	アピスファーマシー イオンリテール ウエルシアホールディングスグループ カイセイ薬局 京都コムファ 京都民医連保険薬局グループ キリン堂 クオール グリーンファーマシー グリーンメディック コクミン ココカラファインヘルスケア サエラ薬局 ザグザグ サンプラザ調剤薬局 スギ薬局 ニチホス ファーマライズホールディングス ファルコファーマシーズ ファルメディコ 法円坂メディカル マルゼン薬局 みやこ薬局 ヤクゴ薬局 ゆう薬局グループ
病院	大津市民病院 京都九条病院 市立長浜病院 武田病院グループ(康生会・医仁会) 日本バプテスト病院 星ヶ丘厚生年金病院 洛和会ヘルスケアシステム 若草第一病院
自治体	大阪府 京都府
業種	参加薬局・病院等 《午後（14：00～17：30）》
薬局	アイングループ アルカ ウォルナット エスマイル エバグリーン 関西メディコ クスリのアオキ クラフト クリエイトエス・ディー サンドラッグ 総合メディカル たんぼ薬局 阪神調剤薬局 ビックリー ファーマシィ ブルークロス フロンティア ぼうしや薬局 マツモトキヨシ メディカルー光 ユタカファーマシー レディ薬局
薬剤師会	山口県薬剤師会 和歌山県薬剤師会
病院	浅香山病院 京都市立病院機構 京都第二赤十字病院 倉敷中央病院 神戸市立医療センター中央市民病院 国立病院機構近畿ブロック 生長会 高井病院 徳洲会グループ 姫路聖マリア病院 舞鶴共済病院 松下記念病院
自治体	京都市 鳥取県

平成25年度科学研究費助成事業 採択状況

学長 乾 賢一

研究資金には、毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

今年度は新規で43件申請して17件が採択されました（新規採択率39.53%）。

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は41件、交付予定総額は70,864千円となっています（他機関への転出者は除く）。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。研究活動スタート支援は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題名	交付予定額 (千円)	新規・継続等
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域)	小暮 健太郎	薬品物理化学	細胞の微弱電流環境下における物質取り込み変化の機構解明と革新的薬物送達への展開	3,770	継続
基盤研究(B)	小暮 健太郎	薬品物理化学	腫瘍組織内奥へ積極侵入可能なワームライクDDSの創製	3,640	継続
基盤研究(C)	山下 正行	薬品製造学	小員環の歪みエネルギーの解消を基盤とする新規合成反応の開発と天然物合成への展開	1,071	継続
"	矢野 義孝	臨床薬学教育研究センター	経口投与製剤の臨床薬物動態予測のためのファーマコメトリクス手法の構築	650	"
"	細井 信造	薬学教育研究センター	ビナフル型CDプローブを利用した実用的絶対配置決定法の開発とその天然物への応用	1,560	"
"	奈邊 健	薬理学	好中球をターゲットとした重症喘息と慢性閉塞性肺疾患(COPD)の制御に関する研究	1,690	"
"	山岸 伸行	RIセンター	ポリグルタミン病における小胞体分子シャペロン発現調節機構の解析と治療への応用	1,430	"
"	後藤 直正	微生物・感染制御学	緑膿菌の腸管経由トランスロケーションの統合的解析	1,040	"
"	安井 裕之	代謝分析学	GPR39作動性のPdx-1発現により膵β細胞を保護する抗糖尿病垂鉛医薬品の開発	1,040	"
"	芦原 英司	病態生理学	“骨髄腫幹細胞ニッチ”の解析と治療標的分子の同定	1,430	"
"	上西 潤一	薬化学	Pd触媒を用いる連続キラルTHF環の立体制御とその展開;ゴニオシン類の不斉全合成	1,690	"
"	藤室 雅弘	細胞生物学	細胞性およびウイルス性蛋白質の細胞内分解・成熟機構	1,690	"
"	長澤 一樹	衛生化学	P2X7受容体のスプライスバリエントによる活性制御の変動と精神神経疾患との関連	1,950	"
"	高田 和幸	病態生理学	アルツハイマー病治療への臨床応用を目指した骨髄由来ミクログリア様細胞移植の解析	1,690	"
"	伊藤 由佳子	薬物動態学	個別化医療のためのフ化ピリミジン系抗癌剤の定量的治療効果予測システムの構築	2,210	"
"	勝見 英正	薬剤学	活性酸素消去能に優れた白金ナノ粒子のDDS開発と転移性肝癌治療への応用	1,040	"
"	小原 幸	臨床薬理学	不全心筋におけるミトコンドリア品質管理因子の制御機構解明及び治療への応用	1,300	"
"	吉川 豊	代謝分析学	糖尿病克服を目指した有機・無機ナノ複合体である高活性金属錯体の探索研究	1,040	新規(転出)
"	中山 祐治	生化学	Srcシグナルによる細胞分裂制御機構とその破綻による細胞癌化	2,470	新規
"	石原 慶一	病態生化学	ダウン症マウスモデルの脳発達遅滞および記憶学習障害の分子基盤解明と炎症亢進	1,690	"
"	北村 佳久	病態生理学	酸化ストレスセンサーDJ-1を分子標的とした神経変性疾患治療薬の創製	1,820	"
"	加藤 伸一	薬物治療学	腸管マクロファージに発現するNOX1の機能および消化管炎症の病態との関連の解明	2,470	"
"	大矢 進	薬理学	免疫疾患、癌治療標的分子としての酸感受性カリウムチャネルの制御機構解明	2,470	"
"	松田 久司	生薬学	健胃生薬を素材とした食欲シグナル制御物質の開拓	1,950	"
"	小島 直人	薬品製造学	新規抗がん剤の創出を目指すデュアルコア型アセトゲニン類の構造活性相関研究	1,560	"
"	赤路 健一	薬品化学	基質型阻害剤との複合体構造解析に基づく非ペプチド型プロテアーゼ阻害剤の開発	2,600	"
"	西口 工司	臨床薬学	食道がんに対するビスホスホネート系薬剤を用いた新規治療法の開発	1,690	"
"	本橋 秀之	臨床薬学教育研究センター	データベース活用から抽出される重篤副作用のトランスポータを考慮した発症機序解明	2,080	"
"	中田 徹男	臨床薬理学	脳心腎連関におけるエリスロポイエチンのADMAを介する臓器保護機序の解明	1,950	"
"	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	高尿酸血症合併慢性腎臓病治療におけるシルニジビンの有用性の検討	1,170	"

研究種目	研究代表者	分野名	課題名	交付予定額 (千円)	新規・継続等
挑戦的萌芽研究	小暮 健太郎	薬品物理化学	痛くないワクチンによる抗がん治療	1,950	継続
"	橋本 貴美子	薬化学	横紋筋融解性を有するきのこの毒性と分類	1,300	新規
若手研究(B)	西田 健太郎	衛生化学	味細胞におけるアデノシンの生理的役割の解明	910	継続
"	皆川 周	微生物・感染制御学	緑膿菌の黄色ブドウ球菌増殖抑制機構による菌交代現象の解析	1,430	"
"	中村 誠宏	生薬学	メディシナルフラワーを素材とした抗老化関連物質の探索	1,300	"
"	小島 直人	薬品製造学	ハイブリッド型アセトゲニン類の実用化を目指した構造活性相関研究	2,323	"
"	辻本 雅之	臨床薬学	腎不全患者で頻発する薬剤性横紋筋融解症の発症機構の解明と薬物適正使用法の確立	1,560	"
"	長谷井 友尋	公衆衛生学	メイラード反応物ABAG及びその関連物質の糖尿病状態での生成及びその生態影響	1,040	"
"	濱 進	薬品物理化学	癌の診断・治療法開発を目指した放出孔サイズ制御型の腫瘍低pH応答性ナノ粒子の開発	2,210	新規
"	小林 数也	薬品化学	基質配列に基づく構造活性相関研究を通した新規BACE1阻害剤の開発	2,730	"
"	藤井 正徳	薬理学	脳ニューロステロイドをターゲットとした新規アトピー性掻痒治療薬の創出	1,300	"

大学生が描いた「京都のまちの将来像」発表会出場

京都市が主催する『大学生が描いた「京都のまちの将来像」発表会』が去る3月24日（日）に京都市中京区烏丸通夷川上ルの京都市商工会議所にて開催され、本学からも絵に心得のある有志チーム「京都薬大POPPY's」の4名のメンバー（上野佳奈美：3年次生、中川智絵：2年次生、林祐里：1年次生、堀江文乃：1年次生）が出場した。

このプロジェクトは京都市の都市計画局が同市の30年後と100年後の姿はどうあるべきかその具体的な将来像を京都市内の大学に在籍する学生から募集し、今後のまちづくりに活用するというものである。昨年8月末に募集があり、本学も早速構想を練り応募したところ採択され、後期の授業開始とともに制作を始め12月末に完成させた。

当日は多くの市関係者や市民からなる聴衆の前でその作品とそのコンセプトを発表した。同発表会には京都大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学を筆頭に建築学や都市計画学など専門の学科を持つ京都市内の8大学、13チームが出場、本学の「京都薬大POPPY's」は2番目の発表であった。各チームともCGや模型を駆使、中には寸劇を盛り込んで行う熱のこもった発表はまさにコンペの様相を呈していた。そ

のような中で全く門外漢ともいえる本学の出場に対し、司会者から今回の出場チームの中で最も専門からかけ離れた異色のチームだが、一般市民の目線で将来像を提案してもらった。これこそ主催者として待ち望んでいた発表であると最大級の歓迎の言葉をもたらした。

本学のチームのコンセプトは実に単純明快で、30年後のコンセプトとして安全快適な街づくりを目指し、京阪京津線の高架化、JR山科駅と京津線山科駅のプラットホームの高さを統一する、文明開化当時を思わせるレトロなJR山科駅舎の建築と駅前広場の拡充をはかる、ハイパフォーマンスのソーラーパネルの設置と電柱の完全地下埋設を目指す。100年後の姿として京都の東の玄関である旧三条通に江戸時代の街並みを再現、山科の観光スポットとする。宇宙発電で得られた電力をアンテナで受け取り、一般家庭もそれを利用、下水から得られたエネルギーを利用して動く交通システムの導入である。これらのコンセプトをもとに山科の将来像を水彩画に描き、最終3枚を京都市に提出した。（年次はいずれも当時）

桑形 広司（美術部顧問）



林 祐里さんによる説明



発表会について理事長に報告

2014年度 学部入学試験概要

入試課

2014年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1.入学定員・募集人員・入学試験日程

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願期間	2013年11月 1日(金) ～ 2013年11月 6日(水) 必着		2014年1月 6日(月) ～ 2014年1月17日(金) 当日消印有効	2014年1月 6日(月) ～ 2014年1月24日(金) 当日消印有効	2014年2月24日(月) ～ 2014年3月 7日(金) 当日消印有効
試 験 日	2013年11月11日(月)	2013年11月16日(土)	2014年1月18日(土) 2014年1月19日(日) 個別試験はなし	2014年2月3日(月)	2014年1月18日(土) 2014年1月19日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2013年11月26日(火)		2014年2月14日(金)	2014年2月13日(木)	2014年3月15日(土)

2.検査項目等

推薦入学(指定校制)
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学 (一般公募制)	配点
適性検査 Ⅰ：英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング) Ⅱ：化学(化学Ⅰ)	100 100
面接	40
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	

区分 教科	一般A方式(センター前期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
国 語	国語(近代以降の文章のみ利用する)	100
理 科	化学Ⅰ(必須)、 物理Ⅰ、生物Ⅰから1科目(選択)	200

区分 教科	一般B方式(一般入試)	配点
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、 数学B(数値、ベクトル)	200
外国語	英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、 ライティング)	200
理 科	化学Ⅰ、化学Ⅱ(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200

区分 教科	一般C方式(センター後期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
理 科	化学Ⅰ(必須)、 物理Ⅰ、生物Ⅰから1科目(選択)	200

クラブだより (2)

美術部

5月には京都の植物園などに行って、スケッチ会を開いています。各自、ベンチに座りながらのんびりと思い思いの絵を描いています。

今年は、8月17日(土)～19日(月)に『ギャラリーまほら』という展示場で、展示会を開きます。ぜひ見に来てくださいね。今後も夏休みを利用したりして、展示会を開いていきたいと思っています。

去年は同志社大学主催の『9大学合同展示会』に参

加させていただきました。油絵やクラフト、スケッチブック集に立体工作など個性的な作品が集まり、とても楽しかったです。作品を作るのも楽しいですし、仲間たちと展示会を成功させるため、意見を出し合ったり、共同作業をするのも楽しいものです。学園祭では各自の作った作品を展示しています。油絵や書道、立体工作などどんな作品でもOKです。ポストカードの販売も行っていて、売れた時はとてもうれしいです！その他、今後の予定としてはイラスト大会などを開いていきたいとおもいます。

2014年度大学院薬学専攻博士課程および薬科学専攻博士後期課程の入学選考概要

2013年4月

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野、協力分野) 19分野等	(募集分野、協力分野) 12分野	協力分野においても研究指導を受けることができる。
出願資格	(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者 (2014年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2) 4年制薬学部を卒業し、薬剤師免許を有する実務経験2年以上の者 (入学時において) (3) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者	(1) 修士(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科大学大学院において修士の学位を得た者(2014年3月末日までに当該学位取得見込の者を含む) (2) 外国において前号と同等以上と認められる課程を修了した者(修了見込の者を含む) (3) 大学を卒業したのち社会人として、大学・官公庁・企業・病院等において出願時に2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院において認めた者 (4) その他、本学大学院において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	
主な出願書類	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業(見込)者を除く) (3) 卒業論文および卒業論文の要旨 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(2)の者は薬剤師免許の写し (6) 出願資格(3)の者は住民票	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本大学院修了(見込)者を除く) (3) 修士論文および修士論文の要旨 (4) 研究業績録 (5) 志願者名票・受験票 (6) 出願資格(2)の者は住民票	
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2013年7月12日(金) ～ 2013年7月19日(金) [必着] (冬季募集) 2014年1月6日(月) ～ 2014年1月14日(火) [必着]	
	試 験	(夏季募集) 2013年8月23日(金) (冬季募集) 2014年1月24日(金)	
	合格発表	(夏季募集) 2013年8月30日(金) 午後予定 (冬季募集) 2014年1月24日(金) 午後予定	
	入学手続期限	2014年3月21日(金) 入学金納付期限, 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	面接試問	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。

2013年度KPU^{NEWS}編集委員は下記の皆さんにご協力をお願いすることとなりました

< 委員長 >

鈴木 栄樹 (教 授)

< 委員 (教育職員) >

秋葉 聡 (教 授)

高山 明 (教 授)

藤原 洋一 (准教授)

長谷井友尋 (助 教)

鳥羽 裕恵 (助 教)

< 委員 (事務職員) >

山下 豊彦 (庶務課長)

井本富美代 (進路支援課課長代理)

< 委員 (学生) >

宇野 智哉 (2年次)

佐藤 寿史 (2年次)

木村 朱李 (2年次)

2014年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考の概要

2013年4月

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員		5名		*1: 文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む。
		若干名	若干名	
募集分野		薬科学専攻 12分野	薬科学専攻 12分野	
出願資格		(1) 大学を卒業した者(2014年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2) 本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者*1 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)	
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業者を除く) (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は住民票	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業者を除く) (3) 志願理由書 (4) 実務実績書	
関係日程	出願期間	2013年7月12日(金) ～ 2013年7月19日(金) [必着]		
	試 験	2013年8月23日(金)		
	合格発表	2013年8月30日(金) 午後予定		
	入学手続期限	2013年9月12日(木) 入学金納付期限 2014年3月21日(金) 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	_____	*2: 系 Ⅰ系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野、 薬品化学分野、生薬学分野 Ⅱ系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、 薬品物理化学分野 Ⅲ系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野、 生化学分野 Ⅳ系 病態薬科学系 薬理学分野 Ⅴ系 医療薬科学系 薬剤学分野
	薬学専門	Ⅰ～Ⅴ系*2の12問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)	_____	
	小論文他	_____	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	

リンクリゾルバー SFX 使い方のご案内

図書館では、4月1日から「リンクリゾルバーSFX」を導入しました。

リンクリゾルバーSFXとは、文献データベース、電子ジャーナル、本学所蔵検索システム（OPAC）等を相互にリンクさせ、必要な文献を入手できるようナビゲートするシステムです。

また、新しくなった電子ジャーナル・電子ブックリスト（A-Z）も利用できます。

◆文献データベースから利用する

データベースの検索結果に表示される『Find Full-text @京都薬科大学』のアイコンをクリックするとSFXメニュー画面が表示され、フルテキストの入手先や、冊子体が本学に所蔵されているかどうか探すことができます。

- ・CiNii、Scopus、PubMed、医中誌Web … アイコンが表示されます。
- ・ScienceDirect … 検索結果の一覧から文献を選択して「Bibliographic information」を開くとアイコンが表示されます。
- ・JDreamIII … アイコンではなく検索結果詳細の「My Collection」をクリック。
表示される「SFX」の文字をクリック。
- ・Google Scholar（学内からのみ） … Scholar設定で「京都薬科大学」を検索して設定。
- ・Wiley Online Library … アイコンではなく大学名英語表記が表示されます。

◆電子ジャーナル・電子ブックリストから利用する

リゾルバー導入に伴い、電子ジャーナルリストも電子ブックのリストと併せて更新しました。

図書館ホームページ「電子ジャーナル・電子ブックで探す」をクリックしてご利用ください。次の4種類の検索が可能です。

- ・タイトルから検索
- ・分野から検索
- ・提供元から検索
- ・巻・号・ページから検索

開 館 日 程

2013年 7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2013年 8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2013年 9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

休館

9 : 00-20 : 00

9 : 00-17 : 00

10 : 00-17 : 00

休館=館内整備

学生相談室だより

新入生のみなさん、大学生活には慣れましたか？2～6年次生のみなさんも新学期が始まりましたね。わくわくと同時にストレスも感じやすい季節です。

【学生時代に直面しやすい「悩み」】

❖入学当初

- 目標喪失
- 大学生活への不安
- 大学での勉強についていけるか
- 新しい人間関係づくり
- 一人暮らしでの不安

❖中間学年（～5年次生）

- 無気力・スランプ
- コミュニケーションの問題
- 勉強に意欲がもてない
- クラブ・バイトでのトラブル
- 自分らしさの探求

❖最終学年（6年次生）

- 集団の中の人間関係
- 実習・研究に関する問題
- 学生生活を終えることの不安
- 社会人生活への準備（就活）

大学生活を送っていると、様々なことに会いま
す。時には、なんとなく誰かに話したくなるかもし
れません。

そんな時は気軽に学生相談室をご利用ください。

学生相談室は、一緒に話し合うことで気持ちが整
理されたり、新しい展望が開けるようにお手伝いし
たいと思います。

【学生相談室からのお知らせ】

☆カウンセラーが増えました☆

2013年4月から臨床心理士の角野冴子さんがカウンセラーとして新しく加わりました。三溝、瀬戸、小谷と
ともに4人で学生さんや職員の方のみなさんの相談に応じてまいります。

では角野さん、自己紹介をお願いします。



初めまして。今年度から京都薬科大学のカウンセラーに加わりました、角野冴子と申します。
困っていること、心配なことなどについて、どのようにしたらよいか一緒に考え、解決してい
くお手伝いができればと思っています。

突然ですが、成長には様々な危機が付きものです。落ち込んだり、もがいたりしながら成長し
ます。でも、危機や問題に直面して悩んだり不安になったりしているときは、気持ちに余裕がな
いので、それが成長に必要な危機であることに気が付きません。そのような大切な問題について、
一緒に考えていければと思います。よろしくお願いいたします。

臨床心理士 角野 冴子

☆相談日時も大幅に広がりました☆

月曜日 10：00～17：00 角野 冴子
火曜日 10：00～17：00 瀬戸和佳子
水曜日 9：30～13：30 三溝 雄史（男性）
木曜日 10：00～17：00 角野 冴子
金曜日 9：30～16：30 小谷 典子

学生相談室の相談は、臨床心理士が担当しています。
相談は無料です。

【相談室の場所】

愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム

【予約・問い合わせ先】

予約制ですので、相談を希望される場合は、
学生課窓口で直接申し込むか、
電話・メールでご連絡ください。

電話（学生課）： 075-595-4614

メール： gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

【受付担当】 学生課・医務室 飯塚まで

サイエンス・インカレに参加して

薬品物理化学分野 4年次生 山田 朝子

3月2、3日に行われた第2回サイエンス・インカレにファイナリストとして参加させていただきました。

サイエンス・インカレは薬学部などに限定した大会ではなく、理学部、工学部、医学部などすべての理系学生を対象とした研究発表会です。

今回の大会に参加させていただき、ふだん触れる機会のない分野の研究内容も聞くことができとてもおもしろく貴重な経験をすることができました。

この大会の中で特に強く感じたことはプレゼンテーション能力の重要性です。

もちろん研究内容そのものが優れたものかどうかとも重要ではありますが、どんなに素晴らしい研究をしていてもその素晴らしさを上手く発信することができなければかなり極端な言い方になりますがその研究の価値がくすんでしまうのではないかと感じました。

優秀発表者の発表を聞かせて頂きましたが、自分の研究に多くの人に興味を持ってもらうために初めて聞く人にもわかりやすく、また研究の面白さが伝わるような発表を心がけたということをおっしゃっていましたが、その言葉のとおりどの発表もどういこうところが素晴らしく面白いのかということがとてもわかりやすかったです。また本人が研究を楽しんでいるということも伝わってきました。

私はこの大会に参加させていただいたことで本当に多くのことを学ばせていただきました。

それはこれからの研究室生活の中だけでなく、就職活動や社会に出てからも大切になってくるものではないかと思います。

出場できて本当に良かったです。

1、2、3年次生のみなさんはぜひともサイエンス・インカレの出場に挑戦してみてほしいと思います。きっと自分の世界が広がる貴重な経験をすることが出来るはずです。



薬品物理化学分野 4年次生 原口 直子

サイエンス・インカレに参加したいと思った理由は他学部の発表を見たかったことと、他学部の人からみて自分の発表がどう映るのが知りたかったからです。普段の大学生活は薬学部の人と関わることがどうしても多くなってしまい、自分の考え方は偏っているのではないかと思います。

実際に参加してみると、

日本のいろんな大学で私が初めて聞くような研究が繰り広げられ、しかも自分と同級または下級生がそれを行っていることを目の当たりにすることができ、一人一人が自分の研究に自信を持ち、サイエンスを心から楽しんでいることを感じました。

また、自分の研究内容について他の分野の方に興味を持ってもらうことに対する喜び、理解してもらう難しさと理解してもらったときの達成感、お互いが知っていることを話し合う楽しさを知ることができました。いろいろな分野の先生に評価していただいたことも良い経験となりました。

サイエンス・インカレを通して様々な人と出会うことによって、サイエンスの楽しさを改めて感じる事ができ、また自分の研究を他の人に見てもらうことの重要さを学ぶことができました。サイエンス・インカレに参加できて、本当に良かったと思います。

来年も是非、多くの京薬生にサイエンス・インカレに参加してもらいたいと思います。

最後に、サイエンス・インカレ参加にあたってお世話になりました、小暮先生、濱先生、土谷先生、薬品物理化学分野の先輩、同期、後輩、一緒に参加した山田朝子さん、応援してくれた家族に深く感謝致します。



教育後援会からのお知らせ

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。学生の皆さんには「病院・薬局へ行く前に」の授業に早速活用することができ、大変喜ばれています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

受賞

日本薬学会奨励賞受賞

病態生理学分野の高田和幸助教が平成25年度日本薬学会奨励賞を受賞しました。

本受賞は、病態生理学分野で進めている、アルツハイマー病の病態形成機序の解明ならびに脳ミクログリア細胞のアミロイドβ貪食機能を利用した新規治療戦略についての研究が評価されたものです。

2013年3月27日に授賞式がおこなわれ、同30日に受賞講演（座長：乾 賢一学長）が開催されました。

演題：アルツハイマー病の根本的治療を目指した治療標的の探索と双方向性橋渡し研究

演者：高田 和幸



第31回Cytoprotection研究会 奨励賞受賞

2013年3月15日にメルパルク京都にて開催された「第31回Cytoprotection研究会」において、薬物治療学分野の天ヶ瀬紀久子助教が「奨励賞」を受賞しました。

演題：NSAID誘起小腸傷害の発生における乳酸菌プロバイオティクスの有用性

演者：天ヶ瀬 紀久子、村上 季子、熊谷 みなみ、吉田 有志、竹内 孝治

第13回遺伝子・デリバリー研究会 シンポジウム奨励賞受賞

2013年5月11日（土）に帝京大学で開催された「第13回遺伝子・デリバリー研究会シンポジウム」において、薬品物理化学分野の博士後期課程2年次生の板倉祥子さんが奨励賞を受賞しました。

受賞者：博士後期課程2年次生 板倉 祥子

演題：細胞内プロテアーゼ応答性新規薬物送達キャリアーの開発

演者：板倉 祥子、濱 進、大石 利一、扇田 隆司、小暮 健太郎

日本薬学会第133年会優秀発表賞受賞

2013年3月27日～30日に横浜で開催された「日本薬学会第133年会」において、本学の学生5名が優秀発表賞を受賞しました。

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：博士後期課程1年次生 中村 伊吹

演題：網羅的遺伝子発現解析による低酸素下の腫瘍マーカーLipocalin2の同定

演者：中村 伊吹、濱 進、板倉 祥子、高崎 一朗、土谷 博之、田渕 圭章、小暮 健太郎

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：博士後期課程3年次生 扇田 隆司

演題：細菌べん毛との類似性に基づいたⅢ型エフェクター分泌機構の解析

演者：扇田 隆司、林 直樹、濱 進、土谷 博之、後藤 直正、小暮 健太郎

所属分野：薬品化学分野

受賞者：博士後期課程3年次生 水口 貴章

演題：EGFレセプターの二量化阻害を示す環状ペプチドの構造的特徴

演者：水口 貴章、大原 菜穂、二宮 龍之介、山崎 由香子、飯田 美佳、大江 保奈美、齋藤 一樹、赤路 健一

所属分野：臨床薬学分野

受賞者：5年次生 小出 博義

演題：有機アニオン輸送ポリペプチド1B1を介したSN-38の肝取り込みに及ぼす尿毒症物質の影響

演者：小出 博義、辻本 雅之、落合 愛、勝部 友理恵、北条 亜矢子、住本 菜摘、須本 真理子、中川 智加、松本 光司、小川 佳織、神原 健吾、鳥居 奈央、志摩 大介、古久保 拓（白鷺病院）、和泉 智（白鷺病院）、山川 智之（白鷺病院）、峯垣 哲也、西口 工司

所属分野：臨床薬学教育研究センター

受賞者：5年次生 大川 裕加里

演題：患者・薬局薬剤師間における服薬指導項目に関する相関性

演者：大川 裕加里、今西 孝至、高山 明

名誉教授の称号授与

2013. 4. 1 付

竹内 孝治 吉川 雅之

人 事

任 命

教務部長 教授 後藤 直正
研究科長 教授 小暮健太郎
学生部長 教授 秋葉 聡
進路支援部長 教授 西口 工司
図書館長 教授 赤路 健一
創薬科学フロンティア研究センター長 教授 上西 潤一
共同利用機器センター長 教授 赤路 健一
薬用植物園長 教授 松田 久司
臨床薬学教育研究センター長 教授 高山 明
(以上 任期：2013. 4. 1～2015. 3. 31)

昇 任

分析薬科学系薬品物理化学分野 講師 濱 進
(2013. 4. 1付)

採 用

共同利用機器センター 技術専門職員 照屋千香子
(2013. 4. 1付)
生命薬科学系生化学分野 助教 久家 貴寿
(2013. 7. 1付)

(特命教員)

生涯教育センター(薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター・内部監査部門兼務)

特命教授 谷口 隆之

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

同上

同上

同上

同上

同上

(以上 契約期間：2013. 4. 1～2014. 3. 31)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

特命教授 小林千代子

(契約期間：2013. 6. 1～2014. 3. 31)

(特定教員)

特定教授 三浦 誠

(医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院)

(2013. 4. 1付)

特定教授 四方 敬介(京都府立医科大学附属病院)

(2013. 6. 1付)

(契約事務職員)

動物研究センター

契約事務職員(事務員) 廣瀬 久美

(契約期間：2013. 6. 1～2014. 5. 31)

配置換

事務局庶務課

課長補佐 星野 展宏

(2013. 4. 1付)

出向(国立大学法人京都工芸繊維大学)

事務局庶務課付

課長補佐 星野 展宏

(出向期間：2013. 4. 1～2014. 3. 31)

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2013年3月～2013年5月に寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等(卒業年次順)＞

石田 成弘(昭17)	阪本 直道(昭35)	森 道子(昭41)	武田 忍(昭45)	平野 隆(昭55)
石黒 道彦(昭19)	渋谷 禎彦(昭35)	山下 繁克(昭41)	廣安 勉(昭45)	松井 常孝(昭55)
宇野 衛(昭19)	吉田 壽子(昭35)	山下三千子(昭41)	片岡 潤子(昭46)	伊東 哲子(昭56)
樫井謙太郎(昭23)	鎌倉 嘉男(昭36)	葛城 ユミ(昭42)	木島 早苗(昭46)	高美 美鶴(昭56)
松本 恒行(昭24)	末政 敏子(昭37)	谷口 睦子(昭42)	杉本磨理子(昭46)	坂野 勝(昭57)
倉本 昌明(昭28)	高谷 昌弘(昭37)	匿名希望(昭42)	北山 純子(昭47)	下原 浩一(昭57)
松浦 義二(昭28)	中村 悦子(昭37)	山口 博行(昭42)	北山 進三(昭48)	塚田亜由美(昭57)
安藤 寛治(昭29)	松山 牧子(昭37)	大西和嘉子(昭43)	渡部 展也(昭48)	堀内 順平(昭57)
滝野 哲(昭29)	本岡美智子(昭37)	川田 俊展(昭43)	岡本 節子(昭49)	堀内 香(昭57)
岡本 秀雄(昭31)	銭場 文彦(昭39)	久米 和子(昭43)	渡部 桂子(昭49)	道下 佳子(昭57)
永浜 淳子(昭31)	歳森 弘男(昭39)	都築 澄子(昭43)	鶴原 潔(昭50)	小林 三紀(昭58)
中道 律子(昭31)	加納 亜子(昭40)	富永 勲秀(昭43)	尾崎 重喜(昭51)	金口 朋代(昭62)
清水 政信(昭32)	神田橋紘子(昭40)	富永 護(昭43)	丹所 稔(昭51)	守友 早恵(昭62)
高杉 信義(昭32)	斎藤美智子(昭40)	藤津 勝子(昭43)	片山久美子(昭52)	横田 喜子(平01)
湯浅 総司(昭32)	野口 隆志(昭40)	古本 靖弘(昭43)	森 一二美(昭52)	西原 裕子(平06)
安松 幹夫(昭33)	野口 紘子(昭40)	古本 良子(昭43)	高野 慶子(昭53)	北山 恵理(平23)
浅野 貞子(昭34)	浅野紗智子(昭41)	高越 清昭(昭44)	眞田 優子(昭54)	
木村 恵一(昭34)	伊倉 義隆(昭41)	蘆田 康子(昭45)	砂川 雅之(昭54)	
宅味 博靖(昭34)	斎藤 安正(昭41)	井手口禮子(昭45)	砂川登志栄(昭54)	
新井 修造(昭35)	宮本 茂敏(昭41)	稲垣 美幸(昭45)	鶴原 律子(昭54)	

＜法人役員・評議員・職員(五十音順)＞

乾 賢一(学 長)	高美 時郎(評議員)	森 新(評議員)
久米 光(評議員)	武田 禮二(理事長)	
白木太一郎(評議員)	村山猪一郎(監 事)	

＜元教授(五十音順)＞

金澤 治男 河野 茂勝

(2013年5月31日現在)